

第3回 大阪スーパーシティ協議会 会議要旨

1 日 時 令和4年12月27日(火) 13:25～14:05

2 場 所 大阪市役所5階 特別会議室

3 出席者

《委員》

大阪府知事

大阪市長

公益社団法人 関西経済連合会 会長

大阪商工会議所 会頭

一般社団法人 関西経済同友会 代表幹事

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 事務総長

三菱地所株式会社 執行役常務(うめきた2期開発事業者 JV 代表企業)

《先端的サービスの紹介》

大阪市高速電気軌道株式会社 代表取締役社長

《事務局》

大阪府 CIO 兼スマートシティ戦略部長

大阪市 CIO 兼デジタル統括室長

大阪府スマートシティ戦略部次長

大阪市デジタル統括室スマートシティ推進担当部長

4 会議内容

(1) 開会

(2) 議題

大阪スーパーシティ全体計画(案)について

(3) 先端的サービスの紹介(大阪市高速電気軌道株式会社)

(4) 閉会

5 会議資料

【配付資料】

次第・委員名簿・出席者名簿

＜議題関係＞

資料1-1 大阪スーパーシティ全体計画 概要版(案)

資料1-2 大阪スーパーシティ全体計画(案)

6 会議要旨

(1) 事務局から、「大阪スーパーシティ全体計画（案）」について、資料1-1 大阪スーパーシティ全体計画 概要版（案）に沿って説明。

(2) 意見の概要は次のとおり。

- データ連携により未来の健康社会、最先端の国際医療、陸上の自動運転の実装・Ma a Sの実現、空の移動革命・空飛ぶクルマの実装を万博の開催とその後のレガシーとして実装していくことが大阪のスーパーシティにとって非常に重要である。それに向け重要な役割を担うのが大阪広域データ連携基盤 ORDEN である。様々なデータ連携が想定されるので、しっかりと進めてほしい。
- 夢洲コンストラクションは、工事車両や建設作業員の移動などの円滑化が進められることで、そのノウハウが全国の工事現場や将来のまちづくりに活かされることを期待している。うめきた2期は、大規模な「みどり」の空間を活用した新たな体験サービスなどが提供され、万博開催の1年前に新しい都市のイメージが発信できることを期待している。大阪・関西万博における近未来の医療、健康サービスなどの取組が、国籍や場所を問わず、すべての人が最先端の医療サービスを楽しむ社会の実現につながるなど、万博前、万博中の取組が万博後の取組に発展すると期待している。各プロジェクトの具体的なチャレンジをまとめた全体計画を推進することにより、「まるごと未来社会」の実現につなげていきたい。
- 関経連では、夢洲コンストラクションの実装に向けた取組を進めている。これらを推進していくうえで、デジタル化時代に対応するデータ連携の仕組みが重要となるため、ORDEN に大変期待している。夢洲コンストラクションの取組も ORDEN と連携し、具体的な官民データ連携の事例を作っていく。大阪が先駆けて、例えば、関西広域連合がこの枠組みを活用し、他府県の展開につなげられればスーパーシティが大きな意味をもつ。府市、関係事業者と一体となってスーパーシティ構想の実現ならびに関西の発展に尽力していきたい。
- 当該分野に精通し事業に全力を尽くせる人々が実行すること、中長期のタイムスケジュールが示されていること、見直しを続けてローリングされることの3点が重要である。先端医療サービスが可能な未来社会やパーソナライズされたサービスが示されており、大商の提言のコンセプトとも一致している。ただ、未来に向けての具体的な取組については、より詳しいビジョンが必要である。この分野に精通した経験豊かなアントレプレナーシップを持った人々の参加が求められる。全体計画を企業に広く知ってもらい、魅力的で実践的なものにしていくために企業説明

会の開催を提案する。大商も参加企業の募集に積極的に協力していきたい。スーパーシティはより高いハードルに挑戦する仕組みであるため、規制緩和を伴う取組には、国や協会にもご配慮、ご尽力をお願いしたい。

- 大阪がスーパーシティをめざす背景として、Q o L (Quality of Life) の実現が掲げられている。ライフは、いのちという意味があり、日々の暮らし、生活という意味もあり、人生という意味でもある。暮らしを輝かす、健康・いのちを輝かす、人生が輝く、そのためにデータとデジタル技術を使うことを大阪が宣言することが大阪の都市競争力を強化する。そのため、全国都市のデジタル化をリードする ORDEN の構築に期待している。ただし、技術の進歩は早いため、インフラの整備など、世界一をめざす意欲的なものを検討していただきたい。実装するサービスの縦割りが地域間格差などの弊害を発生させないように、データやデジタルへの関与度、認知度に大きな差がある世代間格差にも配慮してほしい。大阪が、世界から見て住みたいまち、働きたいまち、住民が夢を持ちわくわくして暮らせるまち大阪となるように、大阪のブランド構築をお願いしたい。
- 空飛ぶクルマについて、万博会場内と会場外の2地点間の運航をめざす。空飛ぶクルマの実証、社会的な受容性向上をめざして取り組む。夢洲コンストラクションの実証では、万博会場における工事の最適化、万博関連工事の円滑化の検証が進められている。M a a S、DXなどの新しい取組を活用し、来場者予約、入退場の状況を踏まえて交通機関の混雑状況を予測し、混雑情報を提示するシステムの開発を関係機関と連携して進めている。万博後の姿までを含めて策定される全体計画が魅力的であれば万博への関心も高まる。スーパーシティ構想が、万博の成功に向けた大いなる追い風になることを期待している。
- 技術の進歩により、新しいサービスの創出や新たなサービスが出てくることを期待している。そのためには、計画の見直しや、新たな規制緩和の提案を継続することが必要である。新しいサービスをしたい人々が、夢洲やうめきた2期であれば新しいチャレンジが実現できる、イノベーションが起こせるということが期待できる土壌形成が重要になる。市民や企業がさまざまな活動ができるように支援をしたり、参加を促す後押しをしたり、新しい規制緩和をお願いしたり、継続的に取り組んでいくことが重要である。活動を続けることで出てきた成果を国内外に発信していきたい。今後も官民連携で推進していくべく皆様の協力、ご支援をお願いしたい。

(3) 大阪市高速電気軌道株式会社より、先端的サービス（自動運転への取組）をご紹介。